

日本本國特許廳 (JP)

◎ 等待出版公告

◎ 論 許 公 故 (B2)

昭57-13660

④ Int.Cl. 3
D 04 C 1/05

识别证号 尺内整理证号
7425-46

四〇公告 昭和57年(1982)3月18日

発明の式. 3

(全4頁)

五言古诗

卷 第 554-11363
類 第 550-124061
出 司 880(1975)10月14日
公 關 552-49356
◎第52(1977)3月20日
◎第 附 告 招標書
◎出 來 1-7-8
◎出 購 人 ニチモク株式会社
東京都千代田区大手町2丁目6番
2号
◎代 理 人 弁護士 佐藤義雄
◎引用文獻
卷 第 29190(J.P.C.I.)

アラビア語の歴史

(1) 双頭型無筋端頭であつて貫通組合していく各の端頭部が2つのストランドを右巻きした端頭2字と、2つのストランドを左巻きした端頭2字とにより構成したこととを特徴としてなる無筋端頭。

(2) 双頭型無筋端頭であつて貫通組合していく端頭が組合の端頭その他の方向が左右逆になつていう特許請求の範囲第1項記載の無筋端頭。

(3) 双頭型無筋端頭であつて貫通組合していく端頭の逆方向が一定である特許請求の範囲第1項記載の無筋端頭。

第三回 おのづの御内に現出

支那問題に 管理政局に因する。

従来の無回転柄はストランド 2 本を三本とし、これを全て同一方向に巻きわせ軸を斜めにしているために上下送のバランスが取りにくく、右反は左の何れかのトルクが勝ち筋が密着し易い欠点を持つており、後加工により熱セントリバランスをとっているのが現在である。

然しながらセント効果の面から娘の後れが完全には消滅されず製作面で選択を決定するのに悩み

調節を行ない如何にバランスの取れた機を作らるか
苦心する所であるが田舎上町に於る面が多々あり
努力を要していた。

これが改良の試みとして、特許第291910号山
5 本翅脚なる発明があるが、これは左図り糸(湖田)
- 翅脚よりなる螺旋部翼部分と、右図り糸(湖田)
- 翅脚よりなる螺旋部翼部分とよりなりこの両図の
- 翅の翼端部は左図り糸と右図り糸とを折り返し両柱
- の頭を構成する左図り糸と右図り糸との間に
- は接着しない構造となつてゐる。

そのために、右又は三番り綱ののみ上りなる各
各の綱筋について従来の欠点は改善されてお
らず、また千鳥型駆逐艦は脚脚を構成するストラ
ンドの流れが駆逐艦で折返しとなるために異型
は通常よりも強引張り強度が劣り、また駆逐艦が大
きくなりやすい欠点を有するたために特許第
29190号(1)駆逐艦は実用化されていない。

石見明は、これらの欠点を解消するために試作同志の送れ、トルクを打消す様に異なる送方向の試作を一定の規則性により組合わせた試作筋目であります。

即ち各趾節部とともに、趾節部を形成する2つのストランドよりなる網脚の4本のうち2本は右捺り網脚であり、他の2本の網脚は左捺りであることを特徴とした無筋節脚である。

第5図に実験例の一つを示す。
即ち、いづれの組合部に於ても右捻り（天板）
の脚2本と、左捻り（点綴）脚2本とにより組合
され捻りがバランスされて所期の目的を満たすと
共に、さらに加えて貫通脚部組合の場合には組合
の仰底、即の逆方向が逆となり組合金具を通して
各脚部は右捻り部分と左捻り部分が均等に組合され
同量であり組合に些力が加わっても横れ脚が生じ
ることが防げる。

35 この機を効率良く組立運用するための組立運用
機の運搬へのストラップ類の配置とこれの運行
ルートを第1, 2, 4, 5図に示す。

第3回に比較して明らかに先來の配列の玉子供の出生率を示すものである。

第2図は、同様延縫の延縫品を11工場によつての販売額である。

第4図は遮蔽船配列を過元「渡り」と称する配列での各船の場合の稳定性を示す。

尚、第1、2回による題面基盤面のあとに第6回に示す工具を行加することで千鳥型基盤面を得ることが可能であり、各部の走り方向は第5回に示す通りである。

第 8 図に他の実験例を示す。

左足踏面においても各起筋部分に2つの左捻り糸と、2つの左捻り糸よりなり且頭部のバテンス糸に掛全体としての左捻り糸と右捻り糸の均等化を図る。

記述は元の例と同じであるが、本論を以て構成する場合は一つの部を対応する 2 本のニトラント同士は右に向かう方向の通り合わせである。また本論を千鳥型で構成する場合は、各部は逆方向を対応する形で左の逆方向になりストランドの流れであるが、また構成では元の例と同様に左端部分と右端部分が左右等に組合され同型であり、結果的に逆方が加わっても横れ筋を生じることが防げる。この構造を基盤構成するストランド型と配置と現行の 1 例を第 7 図に示す。

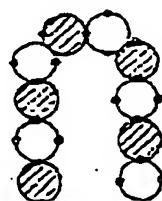
このように從来の気泡頭尾を複数する気泡量に於ては、複数のストップド頭を一方向の内の挖工

上述の上うに本見明は、各施設とともに右さきの
施設と左設りの施設が2つづて居成施設され、
また施設全体としても右施設と左施設とが全量に
均等に配分構成されるために、施設の壊れ、変形
15 並みを全く生ぜず予荷状態が常に保ちうる特長が
ある。従つて本作業室、塔の仕立て、蒙設作業な
どが従来間に比べて取れており、特に流動として
用いた場合常に安定した目がが保ちうるとことから
良種効率の向上も計りうるなど優れた特長を有す
20 るものである。

西の科学小説

第1図は2輪を基礎単位とした前記型及短距型の駆駆図、第2図は他の組合例を示す駆駆図、第3図は先示の連鎖型及短距型図、第4図は後記の25連鎖型駆駆の1事例を示す駆駆図、第5図は第1図及第2図で示された短距の正走型を示した駆駆図、第6図は第1図の直通型より更に子馬型にするための駆駆図、第7図は4輪を基礎単位とした時の短距型及短距時の駆駆図、第8図はこれ30により構成された短距の脚の歩方向の違いを示した駆駆図である。

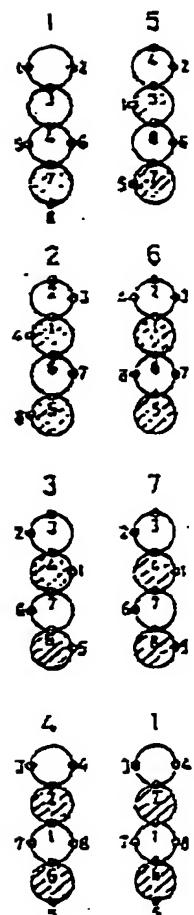
卷之四



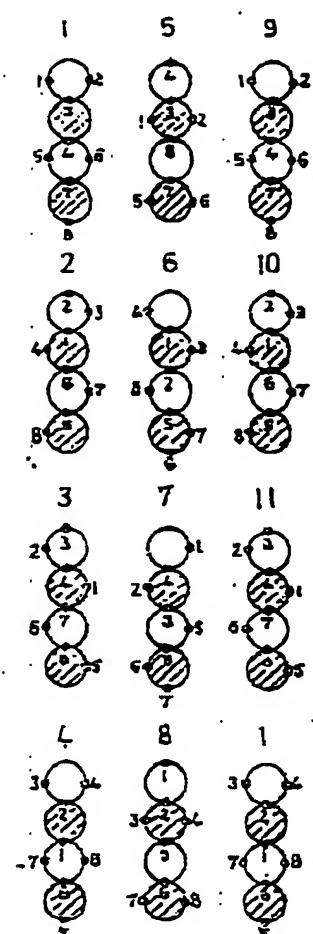
特公昭47-13660

(3)

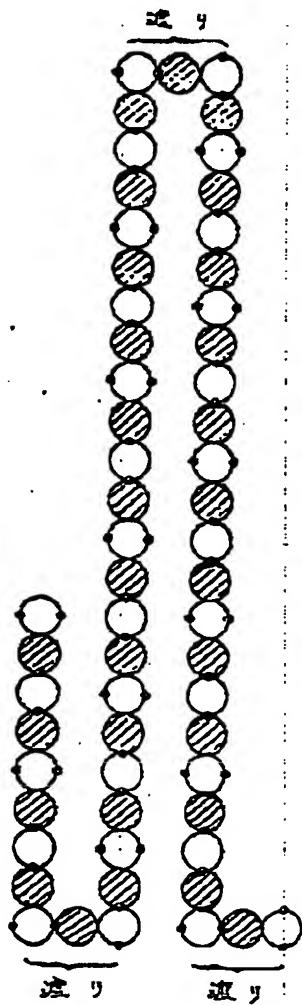
第1図



第2図

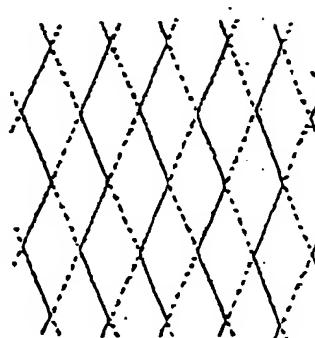


第3図

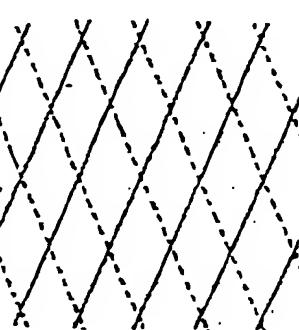


通り 通り

第5図



第8図



(4)

電全圖 -13660

第7圖

第6圖

